

7-1 いいお手本を見つけて参考にしよう

アマチュア無線の交信(QSO)をどのようにしたらよいかを知るためには、実際に行われている交信を聞いてみるのが確実で早道です。交信の仕方はHFとV/UHF、あるいはSSBとFMではちょっと違うところもあるのですが、これらの交信のようすを実際に聞いてみれば、その違いを知ることができます。

ただし、実際の交信をお手本にする場合、よいお手本の場合とそうでない場合もあります。その判断をするには多くの交信を聞いてみてそれらを比較してみるのですが、基本的には社会常識に照らして判断すれば、そんなに間違いはありません。

アマチュア無線の交信は、普通の電話でおしゃべりするような同時通話ではなく、相手局がトランシーバを送信状態にして話をしている間は、こちらは受信してその話を聞き、相手が送信を終わったら、今度はこちらが送信して、おしゃべりをはじめるといように、交互に送受信を繰り返しながら交信をしていきます。そして、呼び出しから終了まで、一回の交信ではこのやりとりが数回繰り返されます。

ですから交信をはじめた場合、受信するほうはただ聞いていればよいので問題ありませんが、気になるのは送信のやり方です。

それではここで、JM1***の送信を例にして、送信のたびに行うべき基本的なことをお話してみよう。その基本は、マイクのPTT(送信)スイッチを押したら、最初に相手のコールサインを、つぎに自分のコールサインを言ってから話をはじめます。実際には、

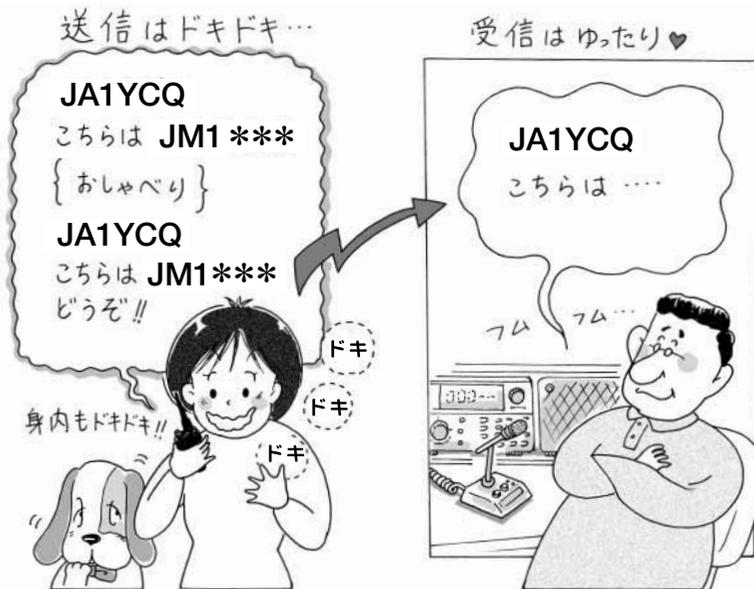


図7-1 初めての交信